

観光振興対策特別委員長報告

観光振興対策特別委員会における、これまでの調査並びに審査の経過についてご報告申し上げます。

昨年七月の委員会設置以来、歴史とにぎわい創出による観光振興に関することについて、県内及び県外の実情を含め、各般にわたり調査並びに審査を行ってまいりました。

まず、初度の委員会においては、記紀・万葉プロジェクトは奈良県政の大きな柱の一つであり、奈良の魅力の発信力につながるとして、地元県民に世界遺産など奈良の観光資源等の魅力を知ってもらう機会
の創出や、にぎわい交流の拠点整備に関して、観光振興事業に係る経
済効果や集客効果についての評価の取組と宿泊観光につながる夜の魅
力創出と朝の取り組みの必要があるとの要望がありました。また、歩
行者の安全対策をさらに進めて観光客の安全の確保に努めるとともに、
若草山移動支援施設など奈良公園周辺整備についての質疑が行われま
した。

また、県内調査として、にぎわい交流の拠点整備に関して、大宮通
りプロジェクトの取組や平城京歴史館、さらに平城宮跡歴史公園拠点
ゾーン整備計画について調査し、また、葛城市相撲館や安堵町の飽波
神社、極楽寺など記紀・万葉ゆかりの施設についての現地調査を行っ
たところであります。

次に、九月定例会においては、奈良県全体を見据えて、市町村の観
光振興に寄与できる基金の創設や県営プール跡地利用において、利用

者が利用しやすい交通計画の策定、さらに観光大使やふるさと大使などの人材を活用した観光PRについて検討されたいとの要望がありました。

また、奈良公園内の私有地開発において、奈良公園の基本的コンセプトに合うように地域活性化協議会を通じて積極的にかかわっていくべきとの要望があり、市町村との記紀・万葉を含む観光振興についての連携強化の必要性について活発な議論が交わされました。

次に、十二月定例会においては、奈良公園周辺における渋滞緩和、歩道環境整備や、景観・環境に配慮した施設整備について質疑を行うとともに、猿沢池周辺では地元奈良市と連携を密にし、県民の理解が得られる外国人の観光案内や日本文化が体験できるなど多様な対応ができる施設整備についての要望がありました。さらに、平城宮跡歴史公園拠点ゾーン整備計画については、公共交通での来訪が困難な障害者や高齢者に限定した駐車場整備について質疑が行われました。

また、若草山移動支援施設については、景観や年中行事などへの影響を見定めるとともに、地元、観光関係者など県民の声を十分に聞きながら検討されたいとの要望がありました。

次に、二月定例会においては、来年度の当初予算案の説明を受け、県営プール跡地へのホテル誘致にかかる規制緩和や地元奈良市との調整など県民の理解を得て早期に誘致ができる方法の検討に取り組むことの要望がありました。また、若草山移動支援施設については、様々な意見があり、時間をかけて慎重に議論するよう求めたところであります。さらに、県営プール跡地の景観整備のほか、各般にわたり活発

な議論が交わされました。

次に、県外調査として、古事記・日本書紀にゆかりが深く、また、本県と連携した取組を行う島根県における記紀に関する「神々の国しまね」プロジェクトの取組成果や、その後の「ご縁の国しまね」の取組、並びに島根県立古代出雲歴史博物館において古事記と出雲神話に係る歴史展示の概要ついて調査するとともに、記紀ゆかりの地の現地調査を行ったところであります。

以上のような経緯を踏まえ、今後も、歴史とにぎわい創出による観光振興として、記紀・万葉プロジェクトとにぎわい交流の拠点整備について、引き続き慎重に審議を行うとともに、市町村との記紀・万葉を含む観光振興にかかる連携強化について、議論を深めて参りたいと考えております。

以上、申し上げて中間報告といたします。